

桜川市の県指定文化財

新規指定文化財と修復・保存

木造五大力菩薩像が県指定文化財に！

1月24日、池亀地区の五大力堂に所在する、木造五大力菩薩像5体が県指定文化財になりました。

これらの像の内の1体には、平安時代末期の治承2年（1178）に作成された、と墨で書かれています。

五大力菩薩像は全国的に見ても珍しく、現存する平安時代の作例は奈良の秋篠寺と今回の池亀地区だけです。

また、本像には平将門に関する伝説もあり、地域の中でも息づいている仏像です。

なお、本像は当分の間、月山寺美術館で展示されます。



指定書交付式の様子



県指定文化財に指定された木造五大力菩薩像（5体）

震災被害文化財の修理が進んでいます

真壁町田地区の木造虚空蔵菩薩坐像（県指定）は、住友財団の助成を受けて修理を進めています。震災時は東京藝術大学にあつて難を逃れ、本体の修理が終わり、平安時代の姿を取り戻しました。被災したお堂は地区で建て替えが完成し、現在は仏像の光背の完成を待っています。



木造虚空蔵菩薩坐像（写真右）と真壁町田地区で建て替えられたお堂（写真左）

富谷地区の小山寺仁王門（県指定）は2年間の保存修理事業として県と市の補助を受けて工事中です。享保17年（1732）の建立後、初め

ての解体修理で、明治時代に背を低く改築される前の姿も分かりました。部材には創建時の大工棟梁はじめ箱田（笠間市）の職人の名が多く墨書きされています。春には江戸時代の本来の姿でご覧いただけます。

また、本木地区の雨引観音仁王門（県指定）、真壁町椎尾地区薬王院の三重塔（県指定）も地震で大きな被害を受け、県の災害復旧補助事業として修理を行いました。

数百年の歴史を重ねている数々の文化財は、様々な災害

旧真壁郵便局の修理工事が完成

観光拠点となっていた旧真壁郵便局（昭和2年建築）は、震災被害により閉鎖していましたが、国の補助を受けて耐震補強、復原修理、活用整備工事を行い、2月1日に公開しました。外観はかつての姿に復原し、内部はトイレなどの施設整備を行いました。



被害の大きかった真壁の町並み地区では、文化庁の支援を得て伝統的建造物の災害復旧事業が続いています。復活した旧真壁郵便局が、復興のシンボルとなるよう、期待されています。

や困難を乗り越えて、私たちに伝えられてきました。修復の歴史も文化財の価値を支えています。



保存修理工事中の小山寺仁王門